

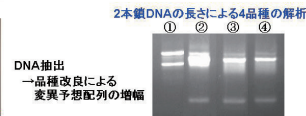
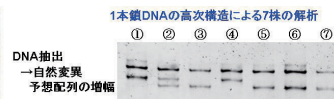
研究概要

植物のDNA解析法の確立とその応用

各地の国立公園でコマクサが増加し愛好家による移植が疑われている。本来の自然状態への復帰が検討されているが、移植の証拠は聞き取り調査のみであり、客観的な証拠としてDNA鑑定が求められている。また、農作物の産地偽装問題でも植物のDNA鑑定法の確立が必要とされるが、様々な植物に有効な解析法がない。

本研究では植物のDNA解析法の確立を目的に、以下の研究を推進している。

- ①全国の自生コマクサのゲノムDNAを比較し、野生植物の鑑定に有効な配列を探索している。
- ②品種の異なるサツマイモについて、農作物の鑑定に有効な配列を探索している。
- ③加工食品中の植物由来DNAの抽出法を検討している。



野生植物・農作物・加工食品などからそれぞれDNAを抽出し、植物の起源や品種改良方法などの背景からDNA鑑定に利用可能な配列を選択する。目的配列部分を増幅し、検出方法を検討する。

今後の展開やメッセージ

植物そのものからだけでなく、加工食品中の植物DNAの鑑定も行えるようになります。食材検査や産地検査が必要な食品についての解析法を確立していきましょう。

研究者情報



堂本 光子 准教授・博士(理学)

基礎教育部 基礎実技教育課程

所属研究所：ゲノム生物学工學研究所

金沢大学理学部生物学科卒。富山化学工業(株)入社 研究所(パイオ関連)勤務。金沢大学遺伝子実験施設研究推進員時、同大学にて論文博士(理学)の学位を取得。予備校生物講師を経て、2004年講師就任。2011年現職。

研究者情報URL

<http://kitnet10.kanazawa-it.ac.jp/researcherdb/researcher/RAEABE.html>

Keyword

ゲノム生物学 / 生物多様性・分類 / 生物資源保全学